

令和7年度 笹尾東幼稚園・笹尾第二保育園 自己評価書

評価基準 (④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人一人の子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	・月案や日々の職員交流の中で子どもの姿を多面的に見合うことで子ども理解に繋がり、発達を促すための保育や環境作りを全職員で考えていくことができました。 ・担任・支援員が連携し個別療育の内容を工夫していくことができました。また、支援員同士の話し合いをもつことで、様々な支援方法を知る機会となり、一人一人の発達促進に繋がりました。	・今後も全職員でのコミュニケーションを大切に子どもをの姿を掴んでいくと共に、家庭背景の把握にも努めることで健全な子どもの成長発達を促していきます。 ・PDCAサイクルを意識した保育を大切に、振り返り・改善点も職員で共有することで、保育の考察力を付け、保育の質の向上を図っていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	4	・昨年度に引き続き「心わくわく」をテーマに行事や保育を考える中で、職員がアイデアを出し合い、個性を発揮しながら進めていく事ができました。職員の出し物では子どもたちの興味を引き出し、再現遊びへと繋がりました。 ・子どもを中心に置き、子どもたちが何を欲しているのか、どんな環境が望ましいのか等、職員間で検討を重ねながら保育を行うことができました。	・一人一人の考えや保育のねらいを明確にした上で意見交流を行い、教育目標の達成に向けて全職員での連携を大切にしていきます。また、3歳以上児、3歳未満児間の連携も深められるようお互いの保育を見合ったり、話し合ったりする機会を増やします。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	・職員の学びたいことを中心とした研修計画を立て職員の保育実践力が高まり子どもの学びに繋がりました。また手袋シアター制作やわらべ歌研修は即保育に活かすことができ、子どもたちの情緒安定、内的聴感の発達を促すことができました。 ・保育提案では書面で掴み切れない保育者のまなざしやクラスの雰囲気など保育モデルとして学び合うことができ、子どもたちの発達を促す保育実践に繋げることができました。	・教材作り、わらべ歌はすぐに保育に活かせることを実感したので、今後も保育実践力の向上を目指し実技に関する内容を研修計画に入れていきます。 ・主体的に研修に参加し職員間で交流する中で、自分の考えや学んだことを明確に伝えられるよう「職員の伝える力」の向上に努めていきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	・避難訓練では改善点を確認し次に活かすことや様々な場面を想定した訓練を行うことで職員が臨機応変に動けるようになり子どもたちを安全に避難させることに繋がりました。「110番映像通報システム」を試すことができたことも強みとなりました。 ・アレルギー対応のロールプレイを全職員で確認することで改善点を見直し、共通理解することで安全な食事の配膳、介助に繋がりました。	・園外保育での避難や不審者侵入対応は弱いと感じるので、状況を想定しながら具体的な対応を全職員で考えていきます。今後も様々な状況を想定しながら避難・防犯訓練を行い、職員の危機管理能力を高めていきます。 ・年度初めに痙攣時対応、救急搬送対応のロールプレイを行い、実際の救急場面で活かすことができるよう安全管理に努めます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	・昨年度の幼保小連携を活かした保育提案、県での発表ができたことで東員町16年一貫教育プランの具体的実践を深めていくことや保育理解に繋がりました。 ・小学校、中学校共に隣り合う立地を生かし、行事だけでなく、自然な関わりや子ども、児童・生徒、職員同士の対話を意識していくことができました。また、幼保小中の職員の連携が子どもたちの安心感・期待感に繋がりました。	・今後はお互いのねらいや大切にしていることを伝え合うことを大切に、子どもたちが安心して進学していけるよう滑らかな接続部分を幼保小中で交流し連携を深めていきます。 ・園での遊びがどの力・学びに繋がるかを「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と照らし合わせて説明できるように園内研修で深めていきます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	・会話や連絡機能を通して、子どもの姿だけでなく、保護者の気持ちにも寄り添うことを心掛けてきたことで信頼関係を築くことができ相談しやすい関係性になりました。 ・発達に応じた丁寧な育児についてのアドバイスやヒントとなる便りの発行を行うことで保護者支援に繋がりました。	・引き続き保護者が悩み等を出しやすいよう傾聴する姿勢を大切にします。また、専門性を活かしたアドバイスを含みながらも保護者の思いに寄り添った支援・保護者の自己肯定感が高まるような支援ができるよう全職員で共有し、手立てを考えていきます。 ・翻訳機能の活用・外国語支援員の協力を得ながら外国籍の保護者が安心して園生活を送れるように支援をしています。